

海上の森自然環境保全地域維持管理事業について

1 シデコブシの保全

周辺樹木の生育による日照不足から開花や結実が少なくなり、生育状況の悪化が懸念されていたシデコブシについて、生育環境改善のための調査と保全活動を実施している。

調査は、2007年度から2011年度にかけて、屋戸川・寺山川野生動植物保護地区の一部区間において、試験的に除間伐を行い、光環境改善効果について名古屋大学へ調査委託した。

2012年11月からは、この結果を基に、大和リース株式会社名古屋支店と協働して、名古屋大学の指導・助言のもとに周辺樹木の除伐を春と秋に実施している。

- 2022年度：2022年5月12日に計画するも、雨天により中止
2022年11月30日実施、11名参加
- 2023年度：2023年5月31日実施、14名参加
2023年11月頃実施予定



シデコブシ保全活動（2023年5月）

今後も保全活動を実施し、名古屋大学の指導・助言のもとにシデコブシの保全に努めていく。

なお、シデコブシの生育状況については別紙1のとおり。

2 スミレサイシンの保全

四ツ沢北東部野生動植物保護地区の生育地で、平成21年度に実施した二次林内の竹林の除伐等によりチヂミザサ等の雑草が繁茂したため、平成22年度から海上の森の会と協働して、除草作業等を実施している。

- 2022年度：2022年12月8日実施、5名参加
- 2023年度：2021年10～11月頃実施予定



調査地（コドラートの設置状況）

今後も保全活動を実施し、植物分野の専門家の指導・助言のもとにスミレサイシンの保全に努めていく。なお、スミレサイシンの生育状況については別紙2のとおり。

2022年春からは、環境調査センターに替わり名古屋工業大学増田研究室が調査を実施している。

3 湿地の保全

屋戸川流域の湿地について、貧栄養湿地としての特性を保全するため、海上の森の会と協働して、アシやヌマガヤなどの枯草を除去している。2019年度からは、増田理子名古屋工業大学教授を指導者として、枯草除去に加えて、上流部の伐採、ミズゴケ・草根除去等の保全を実施している。詳細は、別紙3のとおり。

- 2022年度：2022年12月5日に実施
- 2023年度：2023年11月頃に実施予定



湿地保全活動（2022年12月）

4 ギフチョウの保全

急激に減少したギフチョウの生息地を保全・復元するため、2016年度から食草のカンアオイ類や吸蜜植物のツツジ類等の生育改善、飛翔空間の確保を図る工事・保全活動を実施していた。

現在は海上の森内でのギフチョウの再生産は確認されておらず、保全活動も実施していない。

【2016 自然環境保全地域保全復元事業】屋戸川（屋戸湿地の上流側）

1. 請負（森林整備）工事：受光伐 1.68ha、除伐 1.30ha、ササ刈 1.68ha、植生調査等
2. 協働による保全活動：除伐 0.38ha、ササ・除伐木の整理・片付け・間伐木の搬出、里山保全学習会
協働者：(NPO)海上の森の会、東部丘陵生態系ネットワーク協議会員、企業等 196名
3. 専門家指導：保全計画策定・調査方法検討(2015)、伐採木・保残木の選木(現地指導)(2016)
専門家：芹沢俊介愛知教育大学名誉教授、増田理子名古屋工業大学教授
高橋匡司日本鱗翅学会自然保護委員会東海支部長
4. その他：海上の森区域内におけるカンアオイ類の生育状況調査(名古屋工業大学)

【2017～ 東部丘陵生態系ネットワーク協議会事業等】屋戸川（屋戸湿地の上流側）

1. 協働による保全活動：ササ整理、除伐・萌芽枝の除去、里山保全学習会
協働者：あいち自然再生カレッジ受講生、あいちサスティナ研究所研究生等
2. その他：吸蜜植物の現況調査(名古屋工業大学)

【2018～2021 ENEOS(株)知多製造所との保全協定に基づく協働保全活動】寺山川源流域

1. 協働による保全活動：ササ整理、除伐・萌芽枝の除去 等
協働者：ENEOS(株)知多製造所社員等
○2018年度：2018年10月13日、38名参加
○2019～2021年度 荒天または新型コロナウイルス感染拡大により中止
2. 専門家指導：増田理子名古屋工業大学教授(伐採木・保残木の選木、現地指導、基調講演)
※2020年6月 JXTG エネルギー(株)から社名変更

【保全活動等実施状況】

年度	月日	内容	実施者
2016	7月27日	ササ・除伐木の整理、普及啓発(東部丘陵の取組)	(NPO)海上の森の会、南山大学等 37名
	8月24日	普及啓発(基調講演ほか)	名古屋工業大学 増田理子教授始め 58名
	11月29日	除伐・ササ整理、普及啓発(ギフチョウ保全)	大和リース(株)名古屋支店等 80名
	3月9日	除伐・整理・搬出、薪割、普及啓発(希少種保全)	あいちサスティナ研究所等 17名
2017	8月11日	除伐・ササ整理、普及啓発(湿地観察・講演等)	あいち自然再生カレッジ受講生等 50名
	3月4日	除伐・除伐木の整理、普及啓発(希少種保全)	あいち自然再生カレッジ受講生等 23名
2018	10月	屋戸川でササ整理等(東部丘陵の取組)	(NPO)海上の森の会
	10月13日	寺山川源流域で除伐、普及啓発(基調講演)	JXTG エネルギー(株)知多製造所等 55名
	12月8日	屋戸川で萌芽枝の除去	あいちサスティナ研究所等 20名程
2019	10月22日	(中止)寺山川源流域で除伐又は屋戸川でササ整理	JXTG エネルギー(株)知多製造所等
2020	10月31日	(中止)寺山川源流域で除伐又は屋戸川でササ整理	ENEOS(株)知多製造所等
	12月11日	屋戸川でササ整理等(研修)	県職員 21名
2021	10月16日	(中止)寺山川源流域で除伐又は屋戸川でササ整理	ENEOS(株)知多製造所等

【森林整備概要】



図：海上の森自然環境保全地域における希少種保全対策



海上の森のシデコブシの生育状況について

海上の森自然環境保全地域では、シデコブシ等の希少種が植生の遷移によりほかの樹木等に被陰されて、生育状況が悪化していく。そこで、本県とともに多様な主体の協力により、間伐など希少種の保全活動が行われており、保全活動後に調査を行っている。

保全作業

専門家の指導のもと、屋戸川と寺山川の流域で毎年2回、春と秋に間伐をしている。

調査方法

除伐を行った地点のシデコブシについて、毎年調査を行っている。開花前の3月頃に花芽の数を、実が熟す7月下旬から8月上旬頃に実の数を物理的なつながりのある株ごとに、地上からの目視により数えた。

調査結果

年	屋戸川調査全体				寺山川調査全体			
	調査株数	花芽の数	実の数	結実率	調査株数	花芽の数	実の数	結実率
2013					(47(25))	(398)	(39)	(6%)
2014					65(47)	1688	144	7%
2015	97(37)	251	23	0%	71(37)	387	29	0%
2016	91(66)	3481	430	10%	72(60)	3253	515	13%
2017	86(45)	733	286	13%	69(51)	773	229	20%
2018	90(72)	3036	737	14%	69(54)	1507	411	10%
2019	79(66)	1572	325	9%	63(51)	1307	187	7%
2020	80(73)	5224	485	1.6%	69(54)	2907	203	3%
2021	85(72)	2984	570	8%	67(56)	2762	306	9%
2022	79(58)	1339	163	0%	62(48)	1102	135	0%
2023	86(76)	3702	401	7%	64(54)	2840	325	6%
平均	86(63)	2480	380		67(51)	1859	248	

※調査株数は、「調査株数（花芽のあった株数）」で示した。

※寺山川の2013年は調査地点が少ないため、平均から外した。

※結実率は、花芽のあった株ごとに結実率（実の数/花芽の数）を求めた中央値。

- ・シデコブシは隔年豊凶性を示すことが知られている。花芽、実の数ともに2022年が比較的少なく、2023年が多くなっているため、2023年は豊作の年であったと考えられる。
- ・別に測定している樹冠開空度も低くなったままの個所が多い。
- ・これまで多くの花や実をつけていた大きな木が弱り、枯れてきているのが目立った。
- ・一度、地上部（幹）が枯れた株から萌芽しているのが多数見られた。

海上の森のスミレサイシン生育状況について

2013（平成 25）年度から、自然環境課と環境調査センターが海上の森の会と連携して、海上の森スミレサイシン生育地の保全とモニタリングを行っている。

調査方法

2014 年に 1m×1m のコドラートを 7 カ所設置した。（2017 年に 2 カ所追加）

5 カ所を除草作業区、2 カ所を対照区（何も行わない区画）とした。2017 年には、対照区を 2 カ所追加した。

開花時期である 3 月から 4 月にかけて、各コドラート内の開花株と非開花株の株数を調査した。

保全作業の状況

海上の森の会と連携して、毎年 9 月頃に除草を行っている。光環境を改善させるために行っていた冬の落ち葉除去については、表土を掻くことにより地中にある休眠芽を傷つける可能性があることから、2017 年からは行っていない。

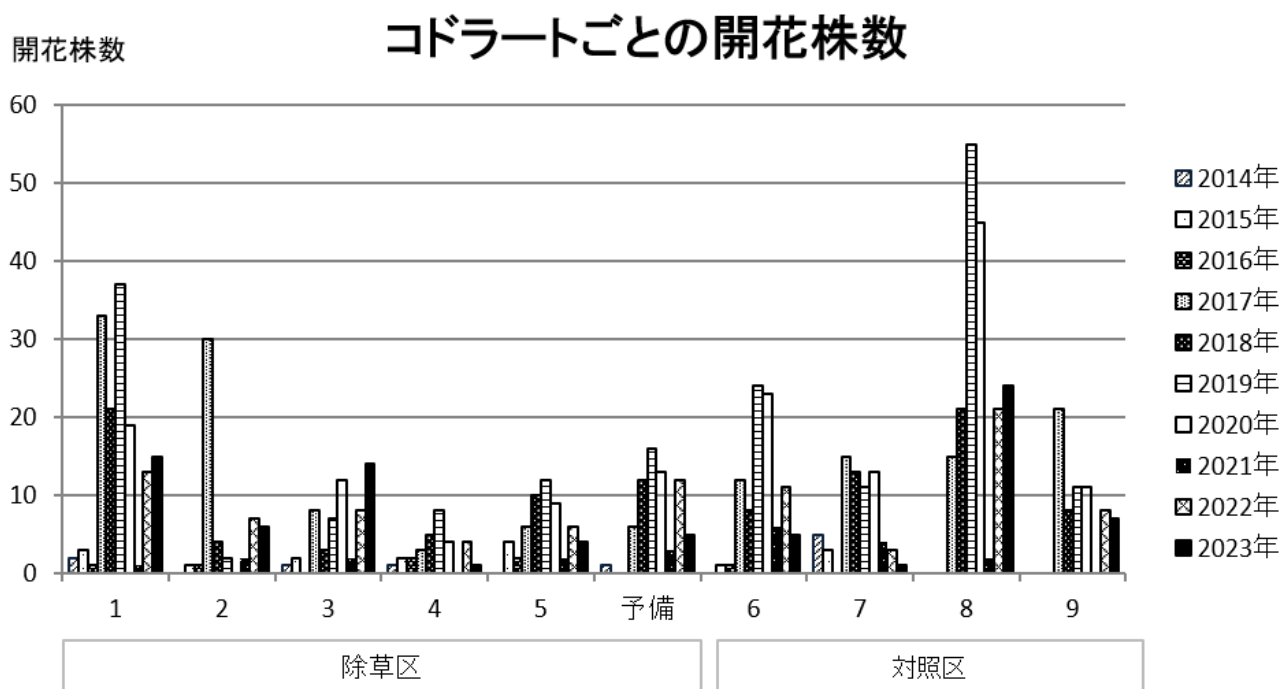
調査結果

調査年 (調査箇所数)	2014 (7)	2015 (7)	2016 (7)	2017 (9)	2018 (9)	2019 (9)	2020 (9)	2021 (9)	2022 (9)	2023 (9)
コドラート内の 開花株数	10	16	7	149	105	183	149	22	93	82
コドラート内の 株数	88	87	99	232	190	362	290	236	265	129
開花割合 (除草区合 計・%)	8	19	9	67	59	57	47	10	38	63
開花割合 (対照区合 計・%)	21	16	3	61	52	47	54	9	32	65
調査地全体 の花の数	533	876	478	579	664	—	1330	450	—	—

- ・2017年からは、どちらの区画においても開花割合が高くなった。2017年1月から落ち葉除去を見合わせている影響がよい形で現れているものと考えられる。
- ・2015～2019年については、除草した区画のほうが、除草しない区画より開花割合が高かった。
- ・2020年は、コドラート内の開花株数は前年より少なかったが、分布・開花範囲は広がっているように見られた。
- ・2021年は近年と比べて、開花数、開花割合が減少した。前年の梅雨時期の日照不足や、早春から気温が高かったことなどの影響が考えられる。冬季にイノシシの掘り返しも見られた。
- ・2022年は、前年と比べ開花株数が増加した。花期に連日の大雨があり、大雨後、株数は増加したが、開花が確認された株は少なかった。
- ・2023年は、個体の移動が見られ、全体的にコドラート内の株数が減少したが、開花率は上昇した。
- ・開花状況は周期変化もあるので、同じ条件であっても年により開花株数は増減する。そのため、今後も継続的に調査を行っていく必要がある。

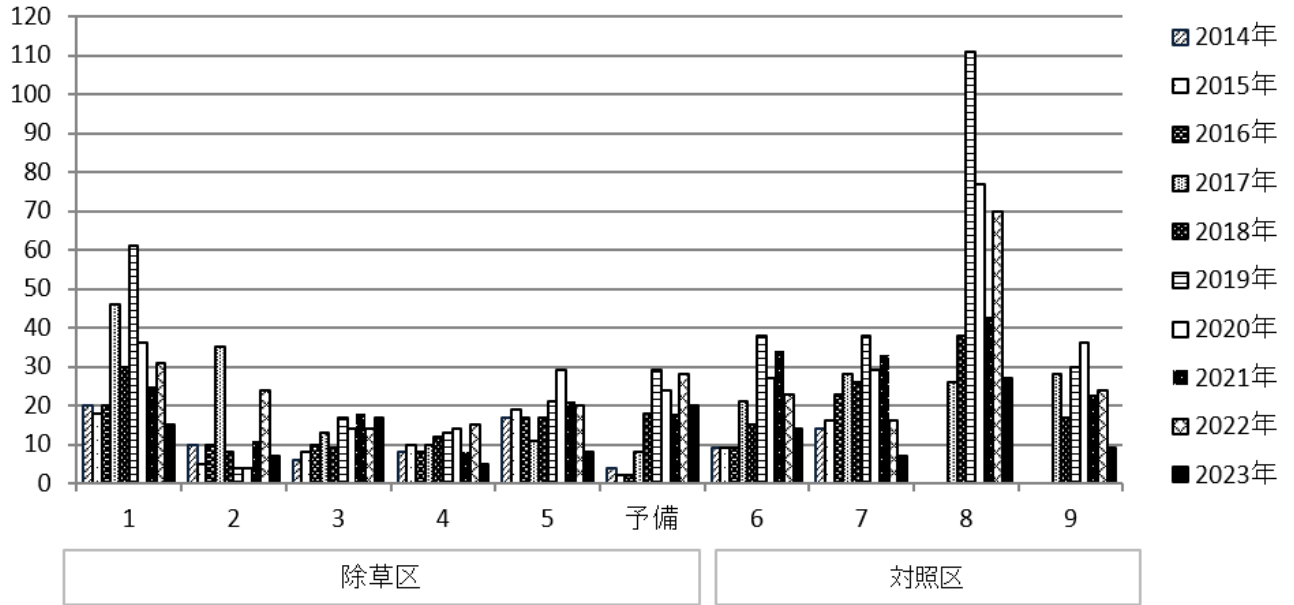
その他

イノシシによる掘り返しの影響を確認するため、動物カメラを設置している。



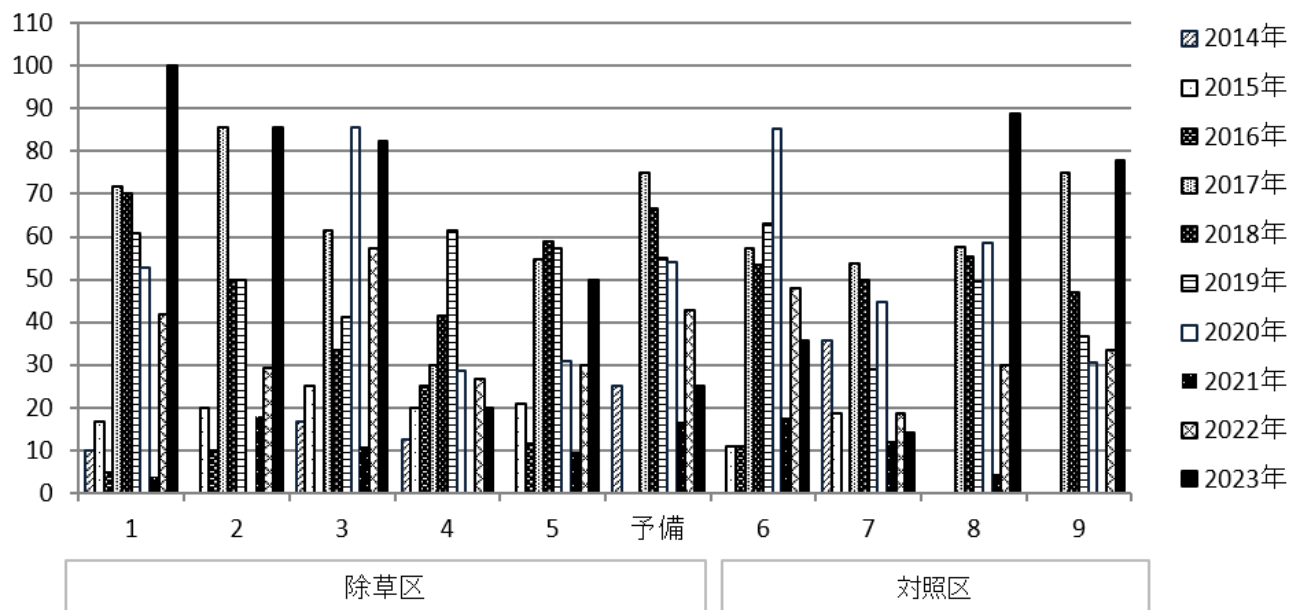
コドラートごとの全株数

全株数



コドラートごとの開花割合

開花割合(%)

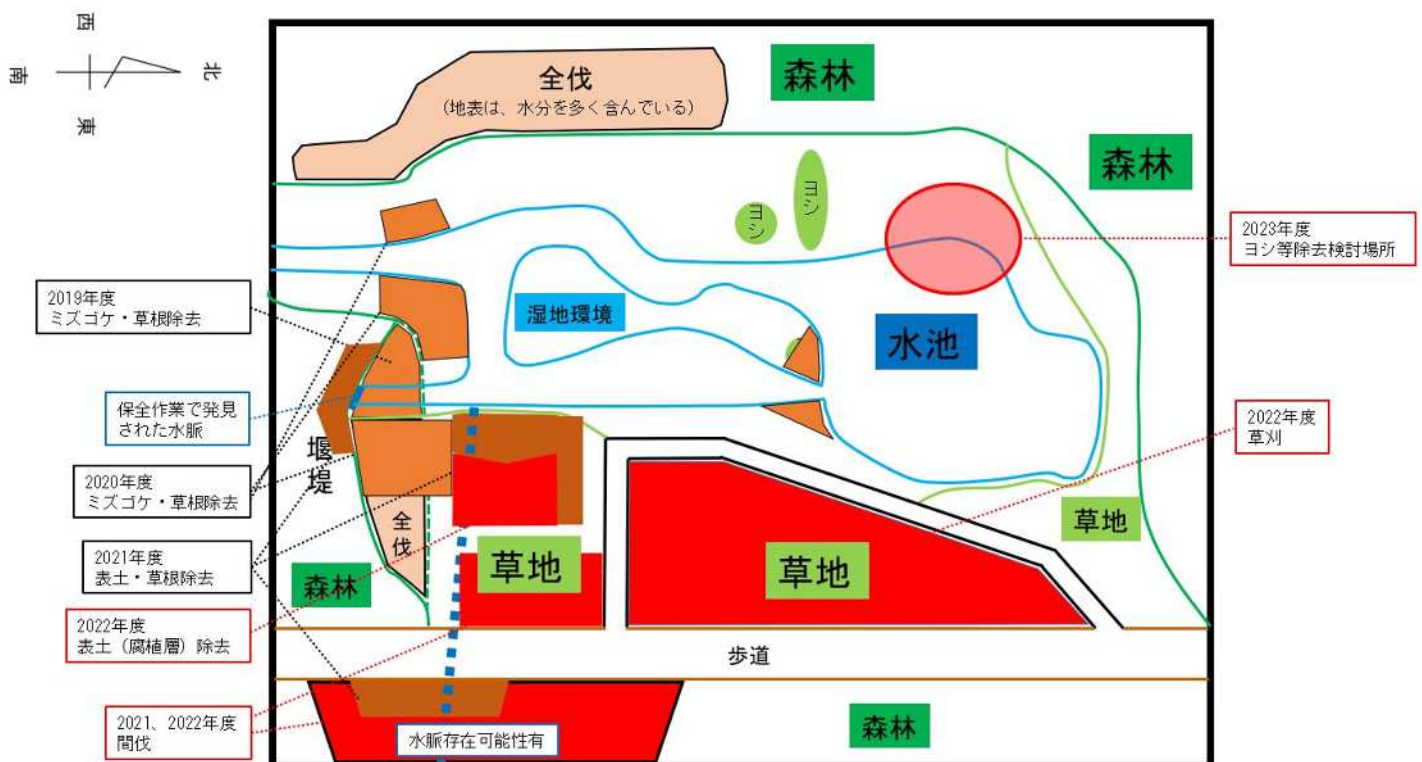


屋戸川流域の湿地の保全内容について

屋戸川流域の湿地について、貧栄養湿地としての特性を保全するため、海上の森の会と協働して枯草の除去を実施してきており、2019年度からは増田理子名古屋工業大学教授の指導のもと保全作業を実施している。

1. 2022年度の作業

実施日	参加者
2022年12月5日	増田研究室、海上の森の会、自然環境課（計16名）



- ・ グレーチング内側の草地において丈の高い草の刈取り、グレーチング南側の草地において表土（腐植層）の除去を行った。
- ・ 歩道沿いの森林の間伐を行った（湿地環境が復元する可能性がある）。

2. 2023年度の保全について（予定）

- ・ 池の陸地化を抑制するため、池に進出しているヨシ等を除去する。
- ・ 表土除去した範囲の遷移や水量等の変化に注視する。
- ・ 保全後の植生調査・水質調査等は、増田研究室で実施する。